

東北地方整備局 北上川下流河川事務所

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市の旧北上川河口部きたかみがわ。古くから川湊かわみなととして栄えてきた地域にふさわしい、安全でにぎわいのある水辺空間の創出を目指して、地域との連携により進められている復旧・復興事業の今を紹介します。

地域の想いと共に

「かわまちづくり」で魅力ある水辺を創出!





日和山から一望する石巻の市街地



北上川下流河川事務所 管理区間

震災被害から立ち上がる石巻市 復旧・復興事業の仕上げに向けて

平成23年の東日本大震災で未曾有の被害を受けた石巻市。旧北上川の河口に面した日和山から撮影された津波の様子や、がれきが積み重なった光景は全国に報じられ、そのすさまじさに衝撃を受けた人も多いでしょう。6年半たった今、同じ場所から見えるのは、人々が一丸となつて復興に励む姿です。

「川の周辺は今もまだ更地が目立つところもあり復興途上にあります。それでも現在では基盤整備が完了期にあり、急速に建物が増えてきました」。

そう語るのには、建設専門官を務める松芳健一です。旧北上川河口部の復旧・

復興事業の全体総括を担っています。

松芳は平成5年に入省後、東北地方整備局などで多くの事業に携わり、北上川下流河川事務所に着任したのは本年4月。「旧北上川河口部の復旧・復興事業は、今まで実施したことのない大規模な事業。こんなに多くの工事を短期間で完成しなければいけない河川事業は他にない」と感じたといます。

「当事務所管轄の東日本大震災からの復旧・復興事業のうち鳴瀬川河口部と北上川河口部は平成28年度末におおむね完了しました。現在、事業を実施しているのは旧北上川の河口から約9km、両岸あわせて整備延長約15kmの区間です。本年3月時点で全体計画の25%が完成しており、完成区間も含める

と約70%の区間で着手済みです。復興・創生期間が終了する2020年度末の完了に向けて着々と仕事を進めています」(松芳)。

堤防がなかった街に 防災と親水を両立させる 堤防を整備

石巻市民には堤防は川と人を区切る障害物になってしまふという感覚があり、震災前まで堤防がほとんどありませんでした。震災後も、今まで堤防がなかった場所、それも今まで市街地だった場所に堤防を造ることに抵抗を感じる人も少なくありませんでした。

そこで同事務所では県や市と連携のもと、平成23年から堤防構造および形状の考え方や計画に関する説明会を各地域で140回以上開催するとともに、有識者の意見なども取り入れ、市民との合意形成を行ってきました。説明会を始めてから約1年後の平成24年11月には堤防整備を位置づけた河川整備計画を策定し、翌年1月に着手となりました。さらに、石巻市街地で同事務所や県、市が実施する復旧・復興事業が本格化すると数多くの工事が輻輳することか



施工上の問題について、担当者間で共有



ら、平成27年11月、市民生活の安全と安心を確保しながら円滑に仕事を推進するために事業間で調整を行う「石巻市市街地復興工事調整会議」を設置しました。

「会議では工事情報の共有や工事の施工順序などの調整、さらに市民の方々の情報発信に取り組んでいます。多くの方と未来図を共有して、工事を遂行しています」(松芳)。



建設専門官 松芳 健一

軟弱地盤の改良工事が進められている堤防整備箇所現場。土中にセメント系固化材を注入する作業が続いている。

市民と川を結ぶ 「かわまちづくり」を 住民参加で推進

堤防整備に際し、地域からは川と共に栄えた石巻の歴史や文化などを踏

まえたまちづくりを求める声が多く挙がっていました。そこで同事務所では堤防整備と併せて、市民の憩いの場となる水辺空間を創出するべく、平成25年7月に「旧北上川河口かわまちづくり検討会」（座長・佐々木葉早稲田大学教授）を設置し、景観の基本方針や堤防・護岸などの設計、拠点地区のデザインなどを検討

市民部会で説明する山崎。市民部会には未来を担う子どもたちも参加している。



本年7月23日（日）に行われた市民部会において、堤防の盛土工事現場で市民の方々に工事内容を説明しながら意見を交わす松芳（左から3番目）



調査課 山崎 明日香

「この地域参加型の「かわまちづくり」を引き継いだのが、

現場との足並みをそろえながら、具体的な検討と調整を行っています。

さらに平成27年8月からは、同事務所・県・市の実務担当者が細部デザインや施工に関する課題点について議論する「地区別ワーキング」と、地区別ワーキングでの検討内容に対し助言などを行う「かわまち調整会議」を設置して

「旧北上川河口かわまちづくり」 景観検討の全体構図

旧北上川河口 かわまちづくり検討会

景観に関する基本方針や堤防・護岸のデザインなどの方向性を検討



各種報告事項への助言・提言

事業進捗・各種検討状況などの報告

市民部会

- 水辺空間の利活用や施設の具体的な配置などについて、地域へ情報発信および意見聴取



整備方針
などの提示

意見

かわまち調整会議

- 地区別ワーキングの検討結果に基づき、景観に関する助言と課題などについて情報共有



検討状況
などの報告

助言

地区別ワーキング

- 景観における細部デザインや施工に関する課題点について、各関係機関の担当者で議論



入省2年目の山崎明日香です。初めての勤務地が同事務所で本年3月までは工務第一課で工事発注を担当していました。本年4月に調査課に着任し、市民部

会や地区別ワーキングなどの準備・運営を担っています。

「かわまちづくり」の中で、市民部会や地区別ワーキングなど、皆で考える場づくりに携わっています。どうすれば率直な声を引き出し、有意義な意見交換ができるのか考えています。それぞれに意見や見方があり、安全性や景観などさまざまな価値観のバランスをとらなければならぬので、みんなの気持ちが一つにまとまり、共有できたときは本当にうれしいですね。6年半に渡って積み重ねられた議論を大切にしながら、いかにスピード感をもって実現することができると強く意識しながら業務に当たっています」（山崎）。

復旧・復興を経て 川凌の歴史を継承するエリアに

災害に強く、活気溢れる「かわまち」になつてほしい…そんな市民の想いと共に石巻の新しいまちが少しずつ形になりつつあります。今後整備される堤防には、「石積み護岸」や「かわど」など石巻の歴史を感じさせる親水空間や、小学校前には環境学習に使えるように干潟が設けられる予定です。本年1月、堤防とプロムナード（散歩道）が一部完成した右岸中央地区には、市が推進する「いし



中央地区14・15番地区の市街地整備と堤防整備の完成イメージ



日が落ちるとボラードの明かりが点灯し屋間とは違った雰囲気



本年1月に完成した右岸中央地区の堤防。石積みの高さは座りやすい高さにするなど検討されている。石積みや舗装のアクセントには地元の井内石を使用。



「細部についても協議を重ね、たとえば石の積み方やボラード（支柱）の間隔、ボラードにかけるチェーンの長さまで現場で調整して決定しています。『そこまです』と思われるかもしれませんが、これまで積み重ねてきた議論の結果をきちんと現場で実現したいという思いからです」（山崎）。

※1 昔、洗い物などをするため水辺に降りられるように地域住民が造った階段

**新しい手法や取り組みで
未来のまちづくりを推進する**

復旧・復興が最盛期とはいえ、まだ道は半ばです。松芳も「工事の後半になるほど難しい現場になるので、気を引き締めて取り組みます」と意気込みを語ります。旧北上川河口部は震災前は水際まで市街地であったことから工事車両の進

ミズベリング石巻



みずべマルシェでは、ヨガ教室も開催



「水辺で落語」の様子

入路の確保やライフラインの移設など施工の問題も山積みであり、そんな困難な業務執行の効率化に威力を発揮しているのが、コンサルタント会社に事業調整や施工監理を委託するプロジェクトマネジメント（PM）^{※2}やコストパフォーマンスマネジメント（CM）^{※3}などです。

「行政ではまだ珍しい手法かもしれませんが、PMやCMに進捗管理や課題整理を委ねることで、責任者としての判断や調整に集中できるのは大変ありがたいです。もちろん一つひとつが難しい課題なのは変わりありません。たとえば旧北上川の河口部では厚いところで約40mもの軟弱地盤層があり、専門家による検討会を設立して施工に反映させるなどの対策を講じているところです」（松芳）。

また工事が進むにつれて具体的なイメージが見えてくるためか、水辺空間を有意義に使用したいという積極的な声が増えてきて、地域の人々の心境にも変化が現れてきたといいます。

「平成27年度より『ミズベリング石巻』という官民協働のプロジェクトを立ち上げ、水辺利用の社会実験として『みずべマルシェ』などを開催したり、NPOなどの団体による意見交換を行ったり、水辺の利活用の推進に向けた活動を行なっています。何を造るかからどう使うかへと、石巻の復興も新たな局面を迎えていることを感じています」（山崎）。

「日々課題を解決しながら地道に工事を遂行する中で、やはり市民の皆さんに喜んでいただけることがうれしいです」（松芳）。

震災でまちを離れた人が復旧・復興を契機に戻り、また川辺のまちに活気が戻ってくる。川を中心としたまちづくりに貢献する事業は、さらに加速して進められていきます。

※2 事業全体のマネジメントを行う事業執行監理
※3 請負契約の適正な履行および品質確保を目的にマネジメント（調整検討・施工管理）を行う施工監理

水辺の復興・みらい館

旧北上川の震災前後の様子、復旧・復興の最新情報、かわまちづくりやミズベリング石巻の取り組み状況などについて、パネルや写真などで紹介。また、旧北上川の復旧・復興事業の完了後を再現したVR（バーチャルリアリティ）を用いた動画も展示している。

